

令和4(2022)年度 基盤研究(S) 審査結果の所見

研究課題名	遺伝子導入・改変技術を駆使した霊長類精神神経障害モデルの病態解明と治療戦略開発
研究代表者	伊佐 正 (京都大学・医学研究科・教授) ※令和4(2022)年6月末現在
研究期間	令和4(2022)年度～令和8(2026)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】 本研究では、非ヒト科霊長類において、脊髄損傷モデル、依存症モデル、精神疾患関連遺伝子欠損モデルを作製し、障害の神経機構の解明と、それに立脚した治療的可塑性の誘導を試みるものである。電気生理学、2重感染トレーシング、イメージング、薬理遺伝学、行動解析、シングルセル解析などの最先端技術を駆使し、因果関係に迫る病態回路研究を遂行する。</p> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】 応募者は、これまで脊髄損傷モデルに関する大規模神経回路再編成について、画期的な研究成果を得ている。本研究では、この回復過程のメカニズムを分子、細胞、回路、行動の階層まで解明できるようにデザインしており、メカニズムに立脚したヒト精神神経疾患の治療戦略の開発にパラダイムシフトを起こし得る成果が期待される。</p>